橋本市・橋本市教育委員会・紀和病院で取り組む「がん教育」が報道に取り上げられました

朝日新聞
2022年（令和4年）5月19日 木曜日
朝日新聞大阪本社

「がんを正しく知り、正しく恐れよう」

橋本・小学校で「生命の授業」 3年ぶり再開

「がんにならないためにできることは」とグループで話し合う児童ら＝橋本市高野口町名倉

橋本市立高野口小学校（同市高野口町名倉）で18日、地元の紀和病院による「がん教育～生命の授業～」があった。2015年に同市内の児童を対象に始め、この2年間コロナ禍で中止していた。今年度は、同小学校のほか11校で再開するという。

日本対がん協会によると、コロナの影響で20年のがん検診受診者が前年比で3割減少するなど検診率の低下でがん発見が遅れる心配が高まっているという。子どもたちに「がんを正しく知り、正しく恐れよう」と伝え、保護者への啓発役も期待している。

授業には6年生48人が出席した。先生役の同病院プレスト（乳腺）センター長の梅村定司医師（55）は「2人に1人がんになるけれども、食事など生活習慣の改善でがんになりにくくなり、早期発見なら9割は治ります」。クイズやグループでの話し合いを取り入れてやさしく説明した。

授業を終えた岩井里莉さん（12）は「運動や食事に気をつけます。学んだことを両親に伝えます」と話した。（福田純也）

がん教育のシンボル「ピンクリボンはしぼう」
橋本市マスコットキャラクター「はしぼう」とのコラボで誕生

毎日新聞
5月19日（木）
2022年（令和4年）
発行所：大阪市北区梅田3丁目4番5号
〒530-8251 電話（06）6345-1551
毎日新聞大阪本社

橋本

がん検診 重要性説く

紀和病院医師 高野口小6年に

がんについて、児童が医師から聴く「がん教育～生命の授業」が18日、橋本市高野口町名倉の市立高野口小学校で開かれた。6年生48人が、同市岸上の紀和病院・紀和プレスト（乳腺）センターの梅村定司センター長から、予防・早期発見に向けた生活習慣の改善や、検診の重要性などを学んだ。

市と市教委、同病院が連携し、年少期から正しい知識を身に付け、親世代などにも伝えてもらおうと、2015年度から始めた授業。しかし、20年度から新型コロナウイルスの影響で中止していた。授業をするのは3年ぶりで、今後市内11小学校で順次実施される。

この日、梅村センター長は、子どもたちにがんの種類などを説明。「日本人の2人に1人が、がんになる。身近なこととして考えてほしい」と訴えた。

その上で、「早期に発見するため、がん検診の受診が重要。生活習慣を見直せば防げるがんもある」と話した。

その後、児童たちは六つの班に分かれ、「がんにならないためにできることは何だろう」との梅村センター長の問いかけへの答えを考えた。「ストレスをためない」「定期的に検診を受ける」などといった意見が出されていた。児童の一人は「ただ怖いと思っていたが、防げると聞いて少し安心した。帰宅後、親に授業の内容を話し、検診を受けるように言う」と話していた。【藤原弘】

がんにならないために必要なことを考える児童たちと、梅村センター長（右）
＝橋本市高野口町名倉の市立高野口小で